



乗って守るって、地域の公共交通

交通省・バス事業のあり方検討会資料)

運行経費を運賃で賄えない赤字路線については、事業者による経費の削減とともに、黒字路線や高速バス、貸切バスなどの収益で補っていましたが、行政による支援無しには路線・便数を維持していくことは困難な状況になってきました。

利用者が減少し、赤字路線が増えています

路線バスは、通学や通勤、通院などの市民の生活を支える、最も身近な公共交通機関の一つです。

しかし、全国的にマイカーの普及や少子高齢化の進展等により、路線バスの利用者が減少し続けており、その経営状況は大変厳しいものとなっています。実際、乗合バス事業者が運行する4分の3の路線が赤字となっており、そして毎年約2,000kmの路線が廃止されています。(国土

路線(社西脇線、社三田線)でも利用者が減少し、経費削減のための減便が行われている状況です。

これまでのように事業者と行政だけで路線バスを維持していくことは、大変難しい状況となっております。

大切な公共交通機関を守りましょう

今はマイカーなどを運転し、移動に困っていないなくても、加齢に伴い、運転が困難になるかもしれない。また、家族等による送迎も、用事などで難しい場合もあるでしょう。そのようなとき頼りになるのは、やはり公共交通機関ではないでしょうか。

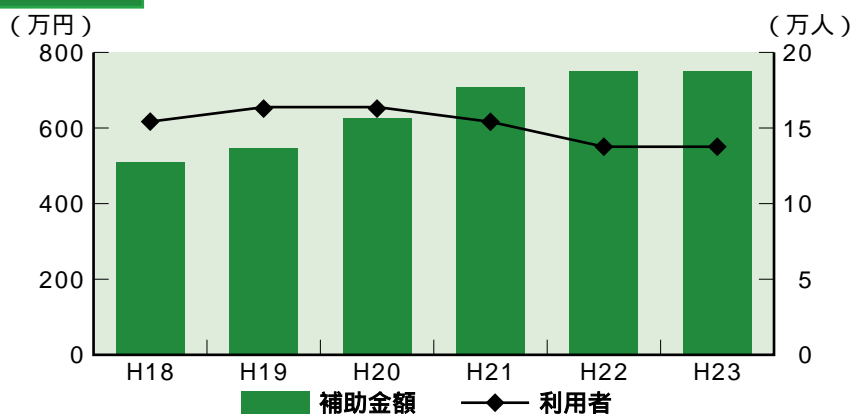
路線バスは、子どもや高齢者など車を運転できない方にとって貴重な移動手段の一つです。多くの方が利用することにより、これら路線の減便や休止を防ぐこともできます。今一度、公共交通の果たす役

割について考え、できることから取り組んでいきましょう。より良い公共交通に変えていくために、市では、市民のみなさまをはじめ、企業、関係行政機関と協力して、地域

の公共交通を守り、育てていきます。問い合わせ

企画部企画政策課社庁舎) 43・0388

【グラフ1】 加東市が支出する補助金額と利用者数の推移(年間)



【資料1】 平成23年度補助対象路線と補助金額(加東市負担分のみ)

- 社～市民病院～清水 (286万円)
- 社町駅～市民病院・生涯教育センター～天神 (152万円)
- 姫路駅前～法華山一乗寺～社 (142万円)
- アスティアかさい前～別府～生涯教育センター (14万円)
- 天神～古川・中谷～電鉄小野駅 (154万円)